

コラボレイティブ開発特論

産業技術大学院大学 中鉢欣秀

2016 年度

目次

1	Part 1: ガイダンスとモダンな道具達	1
1.1	第 1 章 ガイダンス	1
1.2	第 2 章 コラボレイティブ開発の道具達	2
2	Part 2: GitHub 入門	4
2.1	第 3 章 GitHub 入門	4
3	Part 3: Sinatra/Heroku	4
3.1	第 4 章 Sinatra で Web アプリを作ろう	4
4	Part 3: Ruby on Rails/Heroku	5
4.1	第 5 章 Ruby on Rails アプリの開発	5
4.2	第 6 章 DB を使うアプリの開発と継続的統合	7
5	Part 4: Web API	9
5.1	第 7 章 楽天 API を利用したアプリケーション	9
6	Part 5: Mini Project	11
6.1	第 8 章 ミニプロジェクト	11
7	補足資料	11
7.1	補足資料	11

1 Part 1: ガイダンスとモダンな道具達

1.1 第 1 章 ガイダンス

1.1.1 連絡事項

■連絡事項 (1)

- 資料等の入手先
 - GitHub の下記リポジトリにまとめておきます
 - https://github.com/ychubachi/collaborative_development
 - 資料は随時 update するので、適宜、最新版をダウンロードしてください
- Twitter のハッシュタグ
 - Twitter ハッシュタグ -> #enpit_aiit

■連絡事項 (2)

- 仮想環境 (Vagrant)
 - 各自の PC に仮想環境をインストールしておいてください
 - PC を持ってない方には貸出も可能です (数量限定)
 - インストール方法については下記を参照
 - https://github.com/ychubachi/cldv_preparation

1.1.2 授業の全体像

■学習の目的

- ビジネスアプリケーションを構築するための基礎力
- 分散型 PBL を実施する上で必要となる知識やツールの使い方
- これら活用するための自己組織的なチームワーク

■学習の目標

- 分散ソフトウェア開発のための道具を学ぶ
 - 開発環境 (Ruby), VCS とリモートリポジトリ (GitHub)
 - テスト自動化, 継続的インテグレーション, PaaS

■前提知識と到達目標

- 前提とする知識
 - 情報系の学部レベルで基礎的な知識を持っていること
- 最低到達目標
 - 授業で取り上げる各種ツールの基本的な使い方を身につける
- 上位到達目標
 - 授業で取り上げる各種ツールの高度な使い方に習熟する。

■授業の形態

- 対面授業
 - 担当教員による講義・演習
- 個人演習
 - 個人によるソフトウェア開発
- グループ演習
 - グループによるソフトウェア開発

1.1.3 授業の方法

■講義・演習・課題

- 講義
 - ツールの説明
 - ツールの使い方
- 演習
 - 個人でツールを使えるようになる
 - グループでツールを使えるようになる

■成績評価

- 課題
 - 個人でソフトウェアを作る
 - グループでソフトウェアを作る
- 評価の方法
 - 課題提出と実技試験
- 評価の観点

- 分散 PBL で役に立つ知識が習得できたかどうか

1.1.4 自己紹介

■自己紹介

1. 名前
 - 中鉢欣秀（ちゅうばちよしひで）
2. 出身地
 - 宮城県仙台市
3. 肩書
 - 産業技術大学院大学産業技術研究科
情報アーキテクチャ専攻准教授

■連絡先

E-Mail yc@aiit...

Facebook ychubachi

Twitter ychubachi（あんまり使ってない）

Skype ychubachi（あんまり使ってない）

■学歴

- | | | |
|--------|------|--|
| 1991 年 | 4 月 | 慶應義塾大学環境情報学部入学 |
| 1995 年 | 10 月 | 同大学院政策・メディア研究科
修士課程入学 |
| 1997 年 | 10 月 | 同大学院政策・メディア研究科
後期博士課程入学 |
| 2004 年 | 10 月 | 同大学院政策・メディア研究科
後期博士課程卒業
学位：博士（政策・メディア） |

■職歴

- | | | |
|--------|------|---|
| 1997 年 | 10 月 | 合資会社ニューメリック設立
社長就任 |
| 2005 年 | 4 月 | 独立行政法人科学技術振興機構
PD 級研究員
（長岡技術科学大学） |
| 2006 年 | 4 月 | 産業技術大学院大学産業技術研究科
情報アーキテクチャ専攻准教授 |

■起業経験

1. 社名
 - 合資会社ニューメリック
2. 設立
 - 1997 年
3. 資本金
 - 18 万円

■起業の背景

1. 設立当時の状況
 - Windows 95 が普及（初期状態でインターネットは使えなかった）
 - 後輩のやっていたベンチャーの仕事を手伝って面白かった
2. 会社設立の理由
 - 「やってみたかった」から
 - 少しプログラムがかければ仕事はいくらでもあった

- 後輩にそそのかされた・笑

■起業から学んだこと

- 実プロジェクトの経験
- 使える技術
- お金は簡単には儲からない

■教育における関心事

1. 情報技術産業の変化
 - 情報技術のマーケットが変化
 - ユーザ・ベンダ型モデルの終焉
2. モダンなソフトウェア開発者
 - 新しいサービスの企画から、ソフトウェアの実装まで何でもこなせる開発者
 - このような人材の育成方法

1.1.5 「学びの共同体」になろう

■共に学び、共に教える「場」

- 教室に集うメンバーで 学びの共同体になろう
- 困った時には助けを求める
- 他人に教えること＝学び

■チーム演習での問題解決（理想の流れ）

1. 困った時はメンバーに聞く
2. わからなかったらチーム全員で考える
3. それでもダメなら他のチームに相談
4. 講師・コーチに尋ねるのは最終手段！
5. …となるのが理想
 - 授業の進め方などの質問は遠慮無く聞いてください

■共同体になるためお互いを知ろう

- 皆さんの自己紹介
 - － 名前（可能であれば所属も）
 - － どんな仕事をしているか（あるいは大学で学んだこと）
 - － この授業を履修した動機

1.2 第2章コラボレイティブ開発の道具達

1.2.1 モダンなソフトウェア開発とは

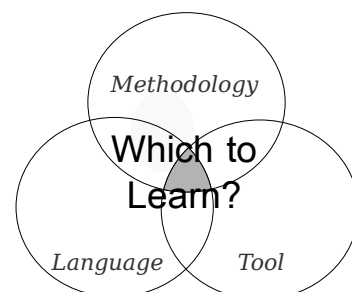


図1 The Framework-Language-Tool framework.

■ソフトウェア開発のための方法・言語・道具

■授業で取り上げる範囲

1. 取り上げること
 - 良い道具には設計思想そのものに方法論が組み込まれてい

る

- 方法論を支えるための道具について学ぶ

2. 取り扱わないこと

- 方法論そのものについてはアジャイル開発特論で学ぶ
- プログラミングの初歩については教えない

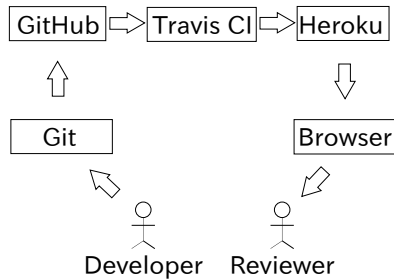


図2 The modern tools for Scrum developments.

■Scrum するための道具

■モダンな開発環境の全体像

1. 仮想化技術 (Virtualization)

- Windows や Mac で Linux 上での Web アプリケーション開発を学ぶことができる
- Heroku や Travis CI 等のクラウドでの実行や検査環境として用いられている

2. ソーシャルコーディング (Social Coding)

- Linux のソースコードの VCS として用いられている Git を学ぶ
- Git は GitHub と連携することで OSS 型のチーム開発ができる

■enPiT 仮想化環境

1. 仮想環境にインストール済みの道具

- エディタ (Emacs/Vim)
- Ruby の実行環境
- GitHub, Heroku, Travis CI と連携するための各種コマンド (github-connect.sh, hub, heroku, travis)
- PostgreSQL のクライアント・サーバーと DB
- 各種設定ファイル (.bash_profile, .gemrc, .gitconfig)
- その他

2. 仮想化環境の構築用リポジトリ (参考)

- [ychubachi/vagrant_enpit](#)

1.2.2 仮想環境の準備から起動

■enPiT 仮想化環境のアップデート

1. 作業内容

- enPiT 仮想化環境 (vagrant の box) を更新しておく

2. コマンド

```
1 cd ~/enpit
2 vagrant destroy
3 vagrant box update
```

■Port Forward の設定 (1)

1. 説明

- Guest OS で実行するサーバに、Host OS から Web ブラウザでアクセスできるようにしておく
- 任意のエディタで Vagrantfile の「config.vm.network」を変更
- 任意のエディタで Vagrantfile を変更

■Port Forward の設定 (2)

1. 変更前

```
1 # config.vm.network "forwarded_port",
  ↳ guest: 80, host: 8080
```

2. 変更後

```
1 config.vm.network "forwarded_port", guest:
  ↳ 3000, host: 3000
2 config.vm.network "forwarded_port", guest:
  ↳ 4567, host: 4567
```

■enPiT 仮想化環境にログイン

1. 作業内容

- 前の操作に引き続き、仮想化環境に SSH 接続する

2. コマンド

```
1 vagrant up
2 vagrant ssh
```

1.2.3 クラウド環境のアカウント・設定

■GitHub/Heroku のアカウントを作成

1. GitHub

- [\[Join GitHub · GitHub\]](#)

2. Heroku

- [\[Heroku - Sign up\]](#)

3. Travis CI

- [\[Travis CI\]](#)

– Travis CI は、GitHub のアカウントでログインできる

■github-connect スクリプト

1. URL

- [github-connect.sh](#)

2. git config を代行

- GitHub にログインし、名前と email を読み込んで git に設定

3. SSH の鍵生成と登録

- SSH 鍵を作成し、公開鍵を GitHub に登録してくれる

■github-connect.sh の実行

- スクリプトを起動し、設定を行う
- GitHub のログイン名とパスワードを聞かれるので、入力する
- rsa key pair のパスフレーズは入力しなくて構わない

1. コマンド

```
1 github-connect.sh
```

■Git と GitHub の設定確認

1. Git の設定確認

```
1 git config --list
```

2. GitHub の設定確認

- ブラウザで GitHub の SSH Key ページを開く

1.2.4 演習: GitHub ユーザ名の提出

■演習: GitHub ユーザ名の提出

- 次の URL から授業で利用する GitHub ユーザ名と URL を登録してください。
 - [コラボレイティブ開発特論-GitHub ユーザ名と URL](#)

2 Part 2: GitHub 入門

2.1 第3章 GitHub 入門

2.1.1 GitHub 入門の解説と演習

■GitHub 入門について

1. GitHub 入門 Git と GitHub にとことん精通しよう
2. 演習資料 [ychubachi/github_practice: Git/GitHub 入門](#)

3 Part 3: Sinatra/Heroku

3.1 第4章 Sinatra で Web アプリを作ろう

3.1.1 Sinatra アプリケーションの作成

■Sinatra を使った簡単な Web アプリケーション

1. Sinatra とは？
 - Web アプリケーションを作成する DSL
 - Rails に比べ簡単で、学習曲線が緩やか
 - 素早く Web アプリを作って Heroku で公開してみよう
2. 参考文献
 - [Sinatra](#)
 - [Sinatra: README](#)

■Sinatra アプリ用リポジトリを作成する

- Sinatra アプリを作成するため、新しいリポジトリを作る
 - Web ブラウザで GitHub を開き、作成できたことを確認

1. コマンド

```
1 mkdir ~/sinatra_enpit
2 cd ~/sinatra_enpit
3 git init
4 git create
```

■Sinatra アプリを作成する (1)

- エディタを起動し、次のスライドにある「hello.rb」のコードを入力

1. コマンド

```
1 emacs hello.rb
2 git add hello.rb
3 git commit -m 'Create hello.rb'
```

■Sinatra アプリを作成する (2)

- Sinatra アプリ本体のコード（たった4行！）

1. コード: hello.rb

```
1 require 'sinatra'
2
3 get '/' do
4   "Hello World!"
5 end
```

■Sinatra アプリを起動する

1. 起動の方法

- hello.rb を ruby で動かせば、サーバが立ち上がる
 - vagrant の port forward を利用するため、「-o」オプションを指定する

2. コマンド

```
1 ruby hello.rb -o 0.0.0.0
```

■Sinatra アプリの動作確認

1. 動作確認の方法

- Host OS の Web ブラウザで、<http://localhost:4567> にアクセスする。
 - 「Hello World!」が表示されれば成功

■参考文献

- [ruby - Unable to access Sinatra app on host machine with Vagrant forwarded ports - Stack Overflow](#)

3.1.2 Heroku で Sinatra を動かす

■Sinatra アプリのディプロイ

- Sinatra アプリを Heroku で動作させてみよう
- Web アプリは世界中からアクセスできるようになる
- Web アプリを Heroku（などのアプリケーションサーバ）に設置することを配備（Deploy）と言う

■コマンドラインで Heroku にログインする

- enPiT 環境には heroku コマンドをインストールしてある
- heroku コマンドを用いて、Heroku にログインできる
 - Heroku の ID と PW を入力する
- 以後の作業は Heroku コマンドを利用する

1. コマンド

```
1 heroku login
```

■heroku に SSH の公開鍵を設定する

- Heroku も git のリモートリポジトリである
- これを公開鍵でアクセスできるようにする

1. コマンド

```
1 heroku keys:add
```

2. 確認

```
1 heroku keys
```

■Sinatra アプリを Heroku で動かせるようにする

- Sinatra アプリを Heroku で動作させるには、(少ないものの) 追加の設定が必要

1. 内容

- 次スライドを見ながら、エディタを用いて、新たに次の 2 つのファイルを作成する

ファイル名	内容
config.ru	Web アプリサーバ (Rack) の設定
Gemfile	アプリで利用するライブラリ (Gem)

■追加するコード

1. コード: config.ru

```
1 require './hello'
2 run Sinatra::Application
```

2. コード: Gemfile

```
1 source 'https://rubygems.org'
2 gem 'sinatra'
```

■関連する Gem のインストール

- Gemfile の中身に基づき、必要な Gem (ライブラリ) をダウンロードする
 - Gemfile.lock というファイルができる
 - このファイルも commit の対象に含める

1. コマンド

```
1 bundle install
```

■アプリを GitHub に push する

- Heroku で動かす前に、commit が必要
 - 後に Heroku のリポジトリに対して push する
- ここでは、まず、GitHub にコードを push しておく
 - この場合の push 先は origin master

1. コマンド

```
1 git add .
2 git commit -m 'Add configuration files for
  ↳ Heroku'
3 git push -u origin master
```

■Heroku にアプリを作る

1. コマンド

```
1 heroku create
2 git remote -v # 確認用
```

- 1 行目: Heroku が自動生成した URL が表示されるので、メモする
- 2 行目: heroku という名前の remote が追加されたことが分かる
- Web ブラウザで Heroku の管理画面を開き、アプリができていることを確認する

■Heroku にアプリを配備する

- Heroku にアプリを配備するには、Heroku を宛先としてリモートリポジトリに push する

1. コマンド

```
1 git push heroku master
```

- Web ブラウザでアプリの URL (heroku create の際にメモしたもの) を開き、動作を確認する

3.1.3 演習課題

■演習課題 4-1

1. Sinatra アプリの作成

- Sinatra アプリを作成して、Heroku で動作させなさい
- Sinatra の DSL について調べ、機能を追加しなさい
- コミットのログは詳細に記述し、どんな作業を行ったかが他の人にも分かるようにしなさい
- 完成したコードは GitHub にも push しなさい

■演習課題 4-2 (1)

1. Sinatra アプリの共同開発

- グループメンバーで Sinatra アプリを開発しなさい
- 代表者が GitHub のリポジトリを作成し他のメンバーを Collaborators に追加する
 - 他のメンバーは代表者のリポジトリを clone する
- どんな機能をもたせるかをチームで相談しなさい
 - メンバーのスキルに合わせて、できるだけ簡単なもの (DB は使わない)

■演習課題 4-2 (2)

1. Sinatra アプリの共同開発 (続き)

- 慣れてきたら GitHub Flow をチームで回すことを目指す
 - ブランチを作成し、Pull Request を送る
 - 他のメンバー (一人以上) からレビューを受けたら各自でマージ
- GitHub の URL と Heroku の URL を提出
 - <http://goo.gl/forms/p1SXNT2grM>

4 Part 3: Ruby on Rails/Heroku

4.1 第 5 章 Ruby on Rails アプリの開発

4.1.1 Ruby on Rails アプリの生成と実行

■RoR を使った Web アプリケーション

1. Ruby on Rails (RoR) とは?

- Web アプリケーションを作成するためのフレームワーク

2. 参考文献

- [Ruby on Rails](#)

■rails_enpit アプリを作成する

- rails は予め、仮想化環境にインストールしてある
- rails new コマンドを用いて、RoR アプリの雛形を作成する
 - コマンドは次スライド

■rails_enpit を作成するコマンド

```

1 rails new ~/rails_enpit --database=postgresql
2 cd ~/rails_enpit
3 git init
4 git create
5 git add .
6 git commit -m 'Generate a new rails app'
7 git push -u origin master

```

■Gemfile に JS 用 Gem の設定

- Gemfile に Rails 内部で動作する JavaScript の実行環境を設定する
 - 当該箇所のコメントを外す

1. 変更前

```
1 # gem 'therubyracer', platforms: :ruby
```

2. 変更後

```
1 gem 'therubyracer', platforms: :ruby
```

■Bundle install の実行

- Gemfile を読み込み、必要な gem をインストールする
 - rails new をした際にも、bundle install は実行されている
 - therubyracer と、それが依存している gem でまだインストールしていないものをインストール

1. コマンド

```
1 git commit -a -m 'Run bundle install'
```

■Gemfile 設定変更のコミット

- ここまでの内容をコミットしておこう

1. コマンド

```

1 git add .
2 git commit -m 'Edit Gemfile to enable the
  ↳ rubyracer gem'
3 git push -u origin master

```

■データベースの作成

- rails_enpit アプリの動作に必要な DB を作成する
- Database は Heroku で標準の PostgreSQL を使用する
 - RoR 標準の sqlite は使わない
- enPiT 仮想環境には PostgreSQL インストール済み

■PostgreSQL に DB を作成

1. 開発で利用する DB

rails_enpit_development	開発作業中に利用
rails_enpit_test	テスト用に利用
(rails_enpit_production)	(本番環境用)

- 本番環境用 DB は Heroku でのみ用いる

2. コマンド

```

1 createdb rails_enpit_development
2 createdb rails_enpit_test

```

■PostgreSQL クライアントのコマンド

1. クライアントの起動
 - psql コマンドでクライアントが起動
2. psql クライアントで利用できるコマンド

Backslash コマンド	説明
l	DB の一覧
c	DB に接続
d	リレーションの一覧
q	終了

■Rails server の起動

- この段階で、アプリケーションを起動できるようになっている
- Host OS の Web ブラウザで、http://localhost:3000 にアクセスして確認
- 端末にもログが表示される
- 確認したら、端末で Ctrl-C を押してサーバを停止する

1. コマンド

```
1 bin/rails server -b 0.0.0.0
```

4.1.2 Controller/View の作成

■Hello World を表示する Controller

- HTTP のリクエストを処理し、View に引き渡す
 - MVC 構造という Controller である
- rails generate controller コマンドで作成する

1. コマンド

```
1 bin/rails generate controller welcome
```

■生成された Controller コードの確認

- git diff コマンドでどのようなコードができたか確認

```
1 git diff
```

- Controller のコードを作成した作業をコミット

```

1 git add .
2 git commit -m 'Generate the welcome
  ↳ controller'

```

■Hello World を表示する View

- HTML 等で結果をレンダリングして表示する
 - erb で作成するのが一般的で、内部で Ruby コードを動作させることができる
- app/views/welcome/index.html.erb を(手動で)作成する
 - コードは次スライド

■Hello World を表示する View のコード

1. index.html.erb

```
1 <h2>Hello World</h2>
2 <p>
3   The time is now: <%= Time.now %>
4 </p>
```

■生成された View コードの確認

- git diff コマンドで変更内容を確認

```
1 git diff
```

- View のコードを作成した作業をコミット

```
1 git add .
2 git commit -m 'Add the welcome view'
```

■root となる route の設定

- Route とは？
 - HTTP のリクエスト(URL)とコントローラを紐付ける設定
- ここでは root へのリクエスト (GET /) を welcome コントローラの index メソッドに紐付ける

1. config/routes.rb の当該箇所をアンコメント

```
1 root 'welcome#index'
```

- rake routes コマンドで確認できる

■routes.rb の設定変更の確認

- git diff コマンドで変更内容を確認

```
1 git diff
```

- routes.rb を変更した作業をコミット

```
1 git add .
2 git commit -m 'Edit routes.rb for the root
  ↳ controller'
```

■Controller と View の動作確認

- 再度, rails server でアプリを起動し, 動作を確認しよう
- Web ブラウザで http://localhost:3000/ を開く

1. コマンド

```
1 bin/rails server -b 0.0.0.0
```

- git log コマンドで一連の作業を確認してみると良い

■GitHub への Push

- ここまでの作業で, controller と view を 1 つ備える RoR アプリができた
- 作業が一区切りしたので, GitHub への push もしておく

1. コマンド

```
1 git push
```

4.1.3 Heroku にデプロイする

■RoR を Heroku で動かす

- 作成した RoR アプリを Heroku で動作させよう

1. Getting Started

- [Getting Started with Rails 4.x on Heroku](#)

■Heroku 用設定を Gemfile に追加

- Gemfile に rails_12factor を追加する
- Ruby のバージョンも指定しておく
- Gemfile を変更したら必ず bundle install すること

1. Gemfile に追加する内容

```
1 gem 'rails_12factor', group: :production
2 ruby '2.2.2'
```

■デプロイ前に Git にコミット

- Heroku にコードを送るには, git を用いる
- 従って, 最新版を commit しておく必要がある
- ここでは, commit 後, まずは GitHub にも push しておく

1. コマンド

```
1 git commit -a -m 'Set up for Heroku'
2 git push
```

- 2 行目: push する先は origin (=GitHub) である

■Heroku アプリの作成とデプロイ

- heroku コマンドを利用してアプリを作成する

1. コマンド

```
1 heroku create
2 git push heroku master
```

- 1 行目: heroku create で表示された URL を開く
- 2 行目: git push は heroku の master を指定. デプロイすると, Heroku からのログが流れてくる

4.1.4 演習課題

■演習課題 6

1. RoR アプリの作成

- ここまでの説明に従い, Heroku で動作する RoR アプリ (rails_enpit) を完成させなさい

4.2 第 6 章 DB を使うアプリの開発と継続的統合

4.2.1 DB と Scaffold の作成

■Scaffold

1. Scaffold とは

- [scaffold - Google 検索](#)
- 2. RoR では, MVC の雛形のこと
 - CRUD 処理が全て自動で実装される

■Scaffold の生成方法

1. コマンド

```
1 git checkout -b books
```



```
2 bin/rails generate scaffold book
  ↳ title:string author:string
```

- 多くのコードが自動生成されるので、branch を切っておくと良い
 - 動作が確認できたら branch をマージ
 - うまく行かなかったら branch ごと削除すれば良い

■route の確認

1. route

- Scaffold の生成で変更されたルーティングの設定を確認

2. コマンド

```
1 bin/rake routes
```

■DB の Migrate

1. migrate とは

- Database のスキーマ定義の更新
- Scaffold を追加したり、属性を追加したりした際に行う

2. コマンド

```
1 bin/rake db:migrate
```

■参考：Migrate の取り消しの方法

- DB の migration を取り消したいときは次のコマンドで取り消せる

```
1 bin/rake db:rollback
```

- 再度、migrate すれば再実行される

```
1 bin/rake db:migrate
```

■参考：Scaffold 作成の取り消しの方法

1. コマンド

```
1 git add .
2 git commit -m 'Cancel'
3 git checkout master
4 git branch -D books
```

- 1 ~ 2 行目：自動生成された Scaffold のコードを branch に一旦コミット
- 3 行目：master ブランチに移動 ()
- 4 行目：branch を削除 (-D オプション使用)

■動作確認

1. 動作確認の方法

- Web ブラウザで <http://localhost:3000/books> を開く
- CRUD 処理が完成していることを確かめる

2. コマンド

```
1 bin/rails server
```

■完成したコードをマージ

1. ブランチをマージ

- 動作確認できたので、books branch をマージする
- 不要になったブランチは、git branch -d で削除する

2. コマンド

```
1 git add .
2 git commit -m 'Generate books scaffold'
3 git checkout master
4 git merge books
5 git branch -d books
```

■Heroku にデプロイ

1. デプロイ

- ここまでのアプリをデプロイする
- heroku にある db も migrate する
- Web ブラウザで動作確認する

2. コマンド

```
1 git push heroku master
2 heroku run rake db:migrate
```

4.2.2 RoR アプリのテスト

■テストについて

1. ガイド

- [A Guide to Testing Rails Applications —Ruby on Rails Guides](#)

■テストの実行

1. テストコード

- Scaffold はテストコードも作成してくれる
- テスト用の DB (rails_enpfit_test) が更新される

2. コマンド

```
1 bin/rake test
```

4.2.3 Travis CI との連携

■Travis CI のアカウント作成

1. アカウントの作り方

- 次のページにアクセスし、画面右上の「Sign in with GitHub」のボタンを押す
 - [Travis CI - Free Hosted Continuous Integration Platform for the Open Source Community](#)
- GitHub の認証ページが出るので、画面下部にある緑のボタンを押す
- Travis CI から確認のメールが来るので、確認する

2. Ruby アプリ [Travis CI: Building a Ruby Project](#)

■Travis の初期化

1. 内容

- Travis の CI ツール
 - [travis-ci/travis.rb](#)
- Travis にログインして初期化を行う
- init すると .travis.yml ができる

2. コマンド


```

1 gem install travis      # Travis CLI のアップ
   ↳ デート
2 travis login --auto     # GitHub のログイン情
   ↳ 報で自動ログイン
3 travis init             # 質問には全て Enter を
   ↳ 押す

```

■Heroku との連携

1. Heroku との連携

- Travis CI から Heroku への接続を設定する
 - [Travis CI: Heroku Deployment](#)

2. コマンド

```
1 travis setup heroku
```

■Travis で動かす Ruby のバージョン設定

1. 設定ファイルの変更

- まず、Ruby のバージョンを指定する
- 変更の際は YAML のインデントに注意する

2. .travis.yml を書き換える

```

1 language: ruby
2 rvm:
3 - 2.2.2

```

■Travis 用 DB 設定ファイル

1. Travis でのテスト DB

- テスト DB 用の設定ファイルを追加する

2. config/database.yml.travis

```

1 test:
2   adapter: postgresql
3   database: travis_ci_test
4   username: postgres

```

■Travis 上の DB 設定

1. 設定ファイルの変更（追加）

- PostgreSQL のバージョン
- DB の作成
- [Travis CI: Using PostgreSQL on Travis CI](#)

2. .travis.yml (抜粋)

```

1 addons:
2   postgresql: "9.3"
3 before_script:
4   - psql -c 'create database
   ↳ travis_ci_test;' -U postgres
5   - cp config/database.yml.travis
   ↳ config/database.yml
6   - rake db:migrate RAILS_ENV=test # いらな
   ↳ い？

```

■GitHub と Travis CI 連携

1. 説明

- ここまでの設定で、GitHub に push されたコードは、Travis CI でテストされ、テストが通ったコミットが Heroku に送られるようになった
- Web ブラウザで Travis CI を開いて確認する

2. コマンド

```

1 git add .
2 git commit -m 'Configure Travis CI'
3 git push

```

■Travis 経由での Heroku への deploy

1. Travis のログを閲覧

- Web ブラウザで Travis CI の画面を開く
- ログを読む

2. Heroku への Deploy

- テストが通れば、自動で Heroku に配備される
- 配備できたら Web ブラウザでアプリのページを開いて確認する

4.2.4 演習課題

■演習課題 7-1

1. rails_enpit の拡張

- View を変更
 - welcome コントローラの view から、books コントローラの view へのリンクを追加する etc
- Scaffold の追加
 - 任意の Scaffold を追加してみなさい
 - DB の migration を行い、動作確認しなさい
- Heroku への配備
 - Travis 経由で Heroku へ deploy できるようにする

5 Part 4: Web API

5.1 第 7 章楽天 API を利用したアプリケーション

5.1.1 楽天 API

■楽天 API とは？

1. ご利用ガイド

- [楽天ウェブサービス: ご利用ガイド](#)

2. 楽天 API SDK

- [rakuten-ws/rws-ruby-sdk](#)

■楽天 API サンプルアプリ

- [ychubachi/rakuten_enpit_example](#)
 - git clone する
 - bundle install する
- Heroku でアプリを作りアプリ URL を取得
 - heroku create する

■アプリ ID の発行

- 新規アプリを登録する
 - [楽天ウェブサービス: 新規アプリ登録](#)
- アプリ名 (任意), アプリの URL, 認証コードを入力

- アプリ ID, アフィリエイト ID 等を控えておく

■環境変数の設定

- アプリ ID (APPID) とアフィリエイト ID (AFID) を環境変数に登録
- ~/.bash_profile に次の行を追加 (自分の ID 等に変換すること)
- exit して, 再度 vagrant ssh

```
1 export APPID=102266705971259xxxx
2 export
  AFID=11b23d92.8f6b6ff4.11b23d93.???????
```

■ローカルでの動作確認

- ローカルで動作確認する

```
1 ruby hello.rb -o 0.0.0.0
```

5.1.2 Heroku で動作させる

■Heroku の環境変数

1. 環境変数の作成
 - 次のコマンドで, Heroku 内部にも環境変数を作る

2. コマンド

```
1 heroku config:set
  AFID=102266705971259xxxx
2 heroku config:set
  AFID=11b23d92.8f6b6ff4.11b23d93.???????
```

- [Configuration and Config Vars | Heroku Dev Center](#)

■Heroku での動作確認

- Heroku に直接 Push してみる

1. コマンド

```
1 git push heroku master
```

- web ブラウザで動作確認

5.1.3 Travis CI 連携

■楽天 API サンプルアプリの Travis CI 連携

- 楽天 API サンプルアプリを修正して Travis CI と連携させよう
- この作業を行うために, ychubachi が所有する rakuten_enpit_example をフォークする

■フォーク (fork) とは?

- 他人の GitHub のリポジトリを複製して自分で更新できるようにすること
 - 他人の GitHub には push できない
- フォークをすると, 他人が作成したソースコードを修正できる
 - フォーク (複製) した自分のリポジトリに push 可能
- フォーク元のリポジトリに対して Pull request を送ることができる
 - フォーク元の持ち主がマージするとともに master に反映される

- まさに OSS 流開発のスタイル!

■楽天 API サンプルのフォーク

1. コマンド

```
1 git fork
2 git remote -vv
```

- 1 行目: コマンドラインでフォークを作成
 - GitHub の Web で作成することもできる
- 2 行目: remote に自分の GitHub ユーザ名がついた宛先が追加されている
 - Web でフォークを作成した場合と挙動が異なるので注意

■.travis.yml の再生成

- 下の \$GITHUB_NAME は自分の名前に置換して実行

```
1 rm .travis.yml
2 travis init -r
  $GITHUB_NAME/rakuten_enpit_example
3 travis setup heroku
4 emacs .travis.yml # 任意のエディタで
```

- 1 ~ 2 行目: travis.yml の削除と新規作成
- 3 行目: Heroku 用の追加設定
- 4 行目: 利用する Ruby のバージョンを指定

■Travis CI の環境変数

- Travis CI にも環境変数を設定
- 自分の APPID, AFID に書き換えること

1. コマンド

```
1 travis env set APPID 102266705971259xxxx
2 travis env set AFID
  11b23d92.8f6b6ff4.11b23d93.???????
```

■GitHub に push して Travis CI を走らせる

- 変更をコミットして 自分のリポジトリに push

1. コマンド

```
1 git add .
2 git commit -m 'Update .travis.yml'
3 git push -u $GITHUB_NAME master
```

- しばらくすると Travis CI が動き出すので, 確認する

5.1.4 演習課題

■演習課題 8-1

1. ローカルでサンプルを動かす

- 自分の APPID を作成する
- 仮想化環境と Heroku の環境変数を設定
- ローカルで動かしてみよう
- Heroku に直接 Push して動かしてみよう

■演習課題 8-2

1. Travis 経由で動かす

- サンプルを Travis 経由で動作させてみよう
 - Fork して、自分のリポジトリに push できるようにする
 - `.travis.yml` の設定を変更する
 - * やり方は各自で考えてみよう
 - Travis CI に環境変数を設定する

6 Part 5: Mini Project

6.1 第8章ミニプロジェクト

6.1.1 演習課題

■ミニプロジェクト演習

- 楽天 API を利用した Web アプリの コラボレイティブ開発
 - 概ね1時間ごとに最新版を「デモ」する超短距離スプリント
- アプリそのものの完成度は問わない
 - 「GitHub フロー」をうまく回せるかどうか
- 注意事項
 - 難しい知識を無理して使わない
 - 自分がチームに貢献できることを自分で発見しよう

■課題の提出先

- グループの代表者はアプリの URL 等を次のフォームから提出してください
 - <http://goo.gl/forms/xdeirTA169>
- その他
 - README.md に使い方, GitHub/Heroku の URL などを書く
 - LICENCE は必ず設定する
 - コミットメッセージやブランチ名は分かりやすく

6.1.2 おわりに

■Thank you

- and enjoy **Scrum!**

7 補足資料

7.1 補足資料

7.1.1 Vagrant 関連

■Vagrant の補足

1. 仮想環境とのファイル共有

- Guest OS 内に `/vagrant` という共有フォルダがある
- このフォルダは Host OS からアクセスできる
- 場所は Vagrantfile があるフォルダ
- 共有したいファイル（画像など）をここに置く

7.1.2 Git 関連

■Git の補足

1. 元いた branch に素早く戻る方法

```
1 git checkout other_branch # masterで
2 # 編集作業と commit
3 git checkout - # masterに戻る
```

2. Git blame

- だれがどの作業をしたかわかる（誰がバグを仕込んだのかも）
 - [Using git blame to trace changes in a file ·GitHub Help](#)

■バイナリのコンフリクト (1)

- `git merge` でバイナリファイルがコンフリクトした場合、ファイルは `git merge` 実行前のままとなります^{*1}。
- 以下を実行してコンフリクトが発生したとします。

```
1 git checkout master
2 git merge branch_aaa
```

■バイナリのコンフリクト (2)

- そのままにしたいとき (=master を採用) は

```
1 git checkout --ours <binaryfile> # 明示的な実行
   ↳ は不要
2 git add <binaryfile>
3 git commit
```

- `branch_aaa` のファイルを採用したいときは

```
1 git checkout --theirs <binaryfile>
2 git add <binaryfile>
3 git commit
```

■Hub コマンドについて

- enPiT 環境には Hub コマンドが仕込んである
 - [github/hub](#)
- 通常の Git の機能に加えて、GitHub 用のコマンドが利用できる
 - コマンド名は「git」のまま（エイリアス設定済み）
- 確認方法

```
1 git version
2 alias git
```

7.1.3 GitHub 関連

■GitHub の補足 (1)

1. Issue

- 課題管理 (ITS: Issue Tracking System)
- コミットのメッセージで close できる
 - [Closing issues via commit messages ·GitHub Help](#)

2. Wiki

- GitHub のリポジトリに Wiki を作る
 - [About GitHub Wikis ·GitHub Help](#)

■GitHub の補足 (2)

1. GitHub Pages

- 特殊なブランチを作成すると、Web ページが構築できる
 - [GitHub Pages](#)

^{*1} `git merge` でバイナリファイルがコンフリクトした場合・Issue #6

7.1.4 Heroku 関連

■Heroku の補足

1. Heroku のアプリの URL 確認

```
1 heroku apps:info
```

2. Heroku のログをリアルタイムで見る

```
1 heroku logs --tail
```

3. rails generate などが動かない

```
1 spring stop
```

7.1.5 Travis CI 関連

■Travis CI の補足

1. Status Image

- README.md を編集し, Travis のテスト状況を表示する
Status Image を追加する
- [Travis CI: Status Images](#)

2. Deploy 後、自動で heroku の db:migrate

- 次の URL の「Running-commands」の箇所を参照
– [Heroku Deployment - Travis CI](#)

■Sinatra でテストを実行可能に

- Gemfile に rake を追加する

```
1 gem 'rake'
```

- Rakefile を作成する

```
1 task :default => :test
2
3 require 'rake/testtask'
4
5 Rake::TestTask.new do |t|
6   t.pattern = ".*_test.rb"
7 end
```